

2023年度 学校自己評価表

○学ぶこと、分かることの喜びを知り、意欲的・自立的・計画的な学習展開を図れ、必要な単位修得ができる。

中長期目標 (学校ビジョン)	校訓である「共生」「自立」「感謝」を基調とし、「温かい人間関係」「高い志と生き抜く力」「自己への挑戦」を大切に社会に貢献出来る人材の育成を目指す。
-------------------	---

今年度の重点目標	1. 個々に応じた基礎学力の向上・資格の取得 2. 規律ある生活態度の育成・徹底 3. 望ましい人間関係の構築 4. キャリア教育の推進と充実・早期の進路決定
----------	--

評価基準
 A：ほぼ達成 B：概ね達成 C：まだ不十分 D：方策の見直し
 (90%程度) (70%程度) (50%程度) (30%以下)

年度当初				評価結果(10月)				最終評価		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方法	評価	目標の達成状況	次年度引き継ぎ事項等
個々に応じた基礎学力の向上・資格取得	○個々に応じた学習意欲の喚起	○生徒一人一人が集中しやすい授業環境が大方作れている。 ○88%の生徒がその学年の単位を全て取得している。 ○単位認定が心配な生徒は、放課後や長期休暇に補習を実施。また、追試課題も自宅ではなく放課後に組み合わせている。	○学ぶこと、分かることの喜びを知り、意欲的・自立的・計画的な学習展開を図れ、必要な単位修得ができる。	○単位認定が心配な生徒は、放課後や長期休暇に補習を実施。また、追試課題も自宅ではなく放課後に組み合わせている。 ○再履修科目がある生徒へは、担任と教科担当が密に連携をとり、不足ない対応をしていく。						
	○授業の質の更なる向上	○生徒の習熟度や単位認定状況を職員間で共有することができている。 ○全員ではないが職員が資格に挑戦し合格できている。また、外部の研修で得た知識を職員間で共有している。	○英数のクラスを細分化し、生徒の授業理解を深める。 ○生徒の情報を共有し、授業の質を向上させる。 ○職員の自己研鑽が日々行われている。	○英語の習熟度別クラスを1クラス増やし、生徒の習熟度や単位認定状況を職員間で共有する。 ○職員各自の自己研鑽を継続し、様々な資格にチャレンジする。						
	○資格取得率の向上	○漢字検定(6月)3級以下合格率61%、準2級2名合格。パソコン検定(7月)パソコン検定3級以下合格率62%。準2級8名、2級1名。 ○漢字検定(10月)3級以下合格率46%、準2級1名、2級1名合格。パソコン検定(12月)3級以下合格率41%、準2級4名。 ○年間合格率(者)：漢字検定3級以下54%。準2級3名、2級1名。パソコン検定3級以下52%、準2級12名、2級1名。 任意受検の検定受検者が増えている。	○漢字検定3級以下の合格率60%以上、パソコン検定3級以下の合格率が60%以上、かつ各種検定の上位級(準2級以上)の合格者数を増やす。 ○英語検定、数学検定等任意受検検定の受検者数を増やす。	○3級以下の合格率を全部の回で目標達成をめざす。そのために夏休みを活用した学習のやり方を検討する。 ○年間の検定スケジュールを生徒配布し、見通しを立てさせる。 ○月毎の予定だけでなく、年間の模試予定を掲示し、意識を高めさせる。						
規律ある生活態度の育成・徹底	○学校の規律やルールの遵守、公共の場でのマナー向上	○服装、頭髪など、服装検査前から意識できる生徒が増えている。 ○出席率の低い生徒がいる。	○社会で通用する身だしなみを身に付けさせる。 ○社会で通用する生活習慣を身につけるため、全校の出席率を70%以上にする。	○毎月の服装検査だけでなく、毎朝のホームルーム、及び毎週の全校集会でも、整った服装を確認する。 ○出席率の低い生徒に対して、個別面談や放課後対応など、個々に応じた対応をしていく。						
	○積極的な挨拶の定着	○毎朝玄関先で教員が声をかけている。 ○帰りは自分から元気な声での挨拶が聞こえる。朝はこちらの声かけに応じて挨拶がきている。	○挨拶をする習慣を身につけさせる。	○職員全員が名前を呼んでの挨拶を継続していく。						
	○清掃活動の習慣化、学習環境の整備が整う	○学年で週交代の清掃をしている。学年によって丁寧さのバラつきはあるが、年々スムーズに動けるようになっていく。	○自らが率先し毎日清掃活動、身の回りの整理整頓を身につけさせる。	○学年での週交代の清掃を継続する。 ○帰りのホームルームで、身のまわりの整理整頓の声かけをしていく。						

年度当初					最終評価					
評価項目	評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策				評価	目標の達成状況	次年度引継ぎ事項等
望ましい人間関係の構築	○信頼し合える関係作り	○アンケート回収率、生徒・保護者とも100%。保護者満足度96%、生徒満足度94%。 ○「ソフトな夕べ」の保護者参加者平均13名。	○保護者・生徒アンケートで回収率100%、満足度90%以上。 ○「ソフトな夕べ」の参加者平均15人。	○年2回の生徒・保護者アンケートを継続して実施（9月・1月・3年・2月） ○「ソフトな夕べ」の参加者を増加させるため、内容を検討する。						
	○クラスでの仲間作り	○6月に3年生、11月に2年生、3月に1年生が企画を計画・実行して全て成功させることができ、クラスの仲が深まった。 ○勉強室利用0人が年間通して継続できた。	○誰もが居心地のよいクラスを作る。	○生徒企画イベントを年間で計画を立て、個々に役割を持たせて実行する。 1学期（6月）3年生 2学期（9月）2年生 3学期（3月）1年生						
キャリア教育の充実・早期進路決定	○幅広い視野・職業観の育成	○3年生進路決定24/27名（89%）。 ○3年生は86%の生徒が卒業後の進路希望が定まっている。	○幅広い選択肢の中から進路目標を見つけさせ、進路実現のため日々努力させる。	○学校見学、出前授業、職業人講話の計画を立てる。 ○見通しを持って進路について考えさせる。 1年：進学or就職 2年：具体的な進学先、職種 3年：オープンキャンパス、職場見学等の参加						
	○進路実現に向けての具体的・主体的な行動	○進学希望対象者の模試で、各学年毎回受験者がいる。 ○年間のアルバイト経験者は47%。 ○ボランティア活動や地域交流活動への参加を図る。 ○ボランティア募集の情報提供をその都度行っている。昨年度は福祉関係のボランティアは直前の中止が多かった。	○自らの進路について真剣に考えさせることで、具体的な行動を起こさせる。 ○自ら率先してボランティア活動や地域貢献する姿勢を身につけさせる。	○希望する進路実現に向けオープンキャンパスや事業所説明会など積極的な参加を呼びかける。 ○模試の実施だけでなく、模試後に情報共有の会を開き、模試再チャレンジも実施する。 ○社会経験・自己実現に向けたアルバイトを促す。 ○アルバイトを躊躇している生徒を中心に、ボランティアへの積極的な参加を促す。 ○ボランティア参加の生徒を視覚化し、学期末のボランティア表彰を継続して実施する。						